

西宮のマンション事情



ゼミ生とともに作り上げた本を手にする大谷信介教授
—西宮市の関西学院大学で
'12.3.24毎日P27(阪神)

来月10日発売「住宅政策に生かして」

学 住宅地図を活用した社
会調査の試みで、08~12
年に在籍したゼミ生延べ81
人が調査や執筆に関わった。
大谷教授は「これまで
行政はデータに基づく住宅
政策を行ってこなかった。
今回明らかになったデータ
を、今後の行政に生かして
もらえた」と話している。

大谷教授は三田や大阪の
千里、神戸の須磨など関西
のニュータウンについて研
究。関学のある西宮は、マ
ンション住人の割合が6割
以上と高く、また行政がマ
ンションに関するデータを
把握していないことも注
目し、研究始めた。

調査は、住宅地図に掲載
されているマンションを、
1棟ずつエクセルに入力し
てデータベースを作成。そ
の結果、市内には計717
棟のマンションがあり、
3~5階建てが多いことが
わかった。

関西学院大学社会学部の
大谷信介教授(56)が西宮市
のマンション事情について
まとめた書籍が来月10日、
ミネルヴァ書房から発売さ
れる。「マンションの社会

関学大教授ら調査し出版

また94年、00年、07年の
住宅地図を比較した結果、
大阪や神戸への交通の便が
よく、社宅が多いといわれ
る西宮だが、94年に570
棟あった社宅は、07年には
302棟まで減っていた。
業種別みると、金融や製
造業の社宅が大きく減って
いた。一方で公務員やJR、
NTTの社宅の減少幅は小
さかった。

さらに、約850世帯を
対象にしたアンケート調査
では、西宮には3LDK以
上のマンションに一人で暮
らす70代以上の女性が自立
つことが分かったという。
また、出身が県外という住
民が58・6%と多く、住み
心地の良さから市内の鉄道
の同一路線間で引っ越しを
する傾向も見られた。

本は税込3150円。
【大沢瑞季】